

STYLING

MONO

世界的に有名なロンドンの
デザインスタジオ「ペンタグラム」でも
活躍した、ケネス・グランジの
代表的なデザインといえば、
このAuraのオーディオや
英国インターシティの列車、そして
デスクランプ「アングルボイス」が有名。



VOL.10 Aura Design

SINCE 1989~

●特集【オーラデザイン】

Photo/Tomoaki Tsuruda(WPP)、Aura Design

Text/Teruhiko Doi(WPP)

オーディオ製品における音の良さの基準は音の経験値も含め多分に恣意的だ。でも、デザインの良さは誰でも解る。音楽を再生する装置としてオーディオが自分の部屋の中で、どういう存在でいてくれるのか、それはデザインによるところが大きい。ブラックとクロームメタルが印象深い英国製オーラデザインのオーディオは、巨大なスピーカーや、100kgを超える大型のアンプとは対極のスタイリッシュでスマートな世界観。オーディオがプロダクトであることを改めて実感させてくれるデザインである。ケネス・グランジによる造形は、音楽と共にある毎日の生活が、人生を豊かに彩ることを教えてくれる。

STYLING

MONO

ケネス・グランジのデザインによる
名品Aura noteは、8mm厚のガラスリッドを
スライドさせてCDをセットし
クローム・フィニッシュのウエイトで固定する。
その一連の動作はまさに、デザインの一環であり
使うスタイルまで考えられた高度な意匠。
オーディオの次世代を体現したモデルだ。



13 53 19

12 1



マニアックな音の追求よりも、いい環境で音楽を聴きたい世代のオーディオ

イギリスはデザインに対して真面目な国である。たとえ19世紀ウィクトリア朝期の産業革命では工場の生産力が飛躍的に伸びて、大量生産時代の礎を築くことになったが、反面、それまでの職人たちがプロレタリアートとなった。その結果失われた手作業や職人技の再興を図るべく起きた運動が、ウィリアム・モリスらによるアーツアンドクラフツ運動であり、それが以後20世紀のモダンデザインの源流になった。工業プロダクトとデザインの関係性について19世紀からその重要性に着目していたのである。一方で、こつとしたデザインへの真摯なスタンスや伝統的なスタイルへの反動も、他では見られないほど大きいムーブメントを起す国でもある。オーディオの世界で1989年に登場したAuraはフランスの大きさや重量がいい音への絶対条件と信じられていた中で、筐体わずか55mmの厚さの薄型インテグレートッド・アンプだった。しかも鏡面仕上げのクローム・フィニッシュ。フロントパネルという斬新なデザインで、フロントに配置されたボタンは、ポリウレタンとセレクタ、パワースイッチのみという潔さだったのである。だが、この異色ともいえるシンプルさに、新しい世代のファンたちは反応した。なぜならば、いい音を徹底して追求することよりも、いい環境で音楽を聴きたいと願う人たちが、オーディオを購入する中心世代になりつつあったからである。1997年にはいったんイギリスでの製造が終了したが、2006年にAura noteで復活を果たし、いままた新生代の『neo』と『groove』が注目されている。

すべてを集約した一台のレシーバーに
スピーカーケーブルを接続するだけでよかった
noteのスマートさをほぼ残したまま、
セパレート化された『neo』と『groove』。
さらなる音質の追求とパワーを得て
Auraデザインのオーディオは
進化の階段を着実に登っている。

STYLING

MONO

ケネス・グランジもリデザインを手がけた「アングルボイス」であるが古いものはアンティークマーケットでも高値で取引されている。歴史的な名品なのだ。また、グランジがデザインしたものに、マーガレット・ハウエルの別注カラーも。こちらも好事家にはたまらない魅力。



オーディオの世界の常識で考えれば「スマートなデザイン」の筐体からはいい音は期待できない」というのが長い間の揺るがない見識だった。アンプは重厚でトランスは巨大なほど音が良く、ブリとパワー部はセパレートにし、しかもパワーアンプはモノラルでマルチドライブ。スピーカーといえは、屈強な大人でも一人では絶対に運べないほど巨大で重いのが常識とされていた。そんなオーディオは豪華なマニアのための装置であり、限られた居住スペース



英国製オーラデザイン時代の写真。決して大メーカーではないが、マニュアルチャリング魂を感じさせるようなエンジニアたちの手作り感がこのブランドの魅力であることは創業当時から変わっていない。

イスの中で普通に快適な生活を、楽しみながら音楽も楽しみたい、という一般人には無縁の存在なのである。だが、そうは言っても、やはりいい音で音楽を聴きたいのは誰もが考えること。オーディオデザインはそんなジレンマに苦しむオーディオ界にあって頂点にあるオーディオのスケールダウンではなく、独自の視点で音楽を聴くスタイルからの発想でモノ作りを始めた。北欧モダンやイタリア系の現代的なインテリアにも決して負けないデザイン力でありながら、オーディオ製品としての音のダイナミズムも決して失わない、そんなブランドなのである。

ANGLEPOISE / アングルボイス
「Type75ブラック」価格2万5200円。
アングルボイスについての詳しい情報は、
リビング・モティーフのHPで。
<http://www.livingmotif.com/>



Amprifire

オーラデザイン久々の本格的な
インテグレートッドアンプ「groove」。
見た目も美しいアンプである。



「Aura groove INTEGRATED AMPLIFIER」
オーラデザインのスタートとなった初代
モデルから継承されるMOS-FETを
パラッシュプルに配して75+75Wの出力
を確保している。アナログのアンプらしい
温かくて繊細な音でありながら、その表現力は
現代的なクリアでスピード感あふれる音でも
耳を疑うほどの能力でドライブしてくれる。
価格21万円(リモコン付属)

CD Player

オーラデザイン初のCD専用機
「neo」は、シンプルなデザイン
ながらハイエンドな回路とメカ



「Aura neo CD PLAYER」
AK4117デジタル・オーディオ
レシーバーと、AK4125 96kHz/192kHz
サンプリングレート・コンバーター、
高性能DAC CIRRUS LOGIC CS4398
を内蔵し、完全バランス回路で構成された
XLR出力を搭載。デザインだけでなく
回路やメカの充実ぶりに、各方面から
高い評価を得ている逸品。
価格21万円(リモコン付属)

Kenneth Grange



ケネス・グランジ / 世界的に有名なロンドンのデザインスタジオ「ペンタグラム」の主宰デザイナー。数えきれないほどの英国デザイン賞やエジンバラ公賞を受賞。オーラデザインの他に英国のパーキングメーターやバーカーのベン、インターシティの列車デザイン、B&Wのオーディオ、アングルボイス、そしてマーガレット・ハウエルとのコラボレーションなど多彩な活動。現在は独立して活躍中。1929年生。



STYLING

MONO

現在のAura noteの主力機は「Aura note Premier」という。新しくなくて、でも決して古くならないデザインはそのままにメカニズムを一新したモデル。一体型でありながら、往年のVA50アンプに近い暖かいぬくもりのある音質を実現した。



上のモノクロ写真は、Auraデザインの初期に撮影された主力モデルの写真。当時からマシンエイジを彷彿させるようなアナログなデザインが特徴だった。ミッドセンチュリー以降のデザインの温かさをいまも保ち続けているが、雰囲気は決して古くならない。隠されたメカや回路のハイテクさと半世紀前のクラシックさのギャップがこのブランドの面白さである。



A u r a D e s i g n と は ?



10年間眠っていたデザインに光りが射す
 オーラデザイン社は1989年にマイケル・トウという一人のオーディオ好きな若者が立ち上げたオーディオ・ブランドであったが、すぐに資金難に陥り、当時のB&W社のロバート・トルンツに拾われることになった。以降10年間はB&W傘下のブランドとして、シンプルでミニマムなデザインのアンプを発表し成功を収めていく。その後、親会社の意向で会社が閉鎖される憂き目に合うが、日本の輸入オーディオ商社である「ユキム」がブランドを継承し「オーラデザインジャパン」を設立した。実は大ヒット商品「note」はその当時にはデザインも終わってモックアップが製作されていたのだが、会社委員の騒ぎの中でずっと忘れ去られていた存在になっていた。それが後年、一枚の写真で発見され再び製品化への動きとなったのが2006年のこと。つまり、約10年越しの熟成期間を経て世に出たという珍しいオーディオなのである。変化の激しい現代でも、完成されたデザインは古くならない。ということを図らずも実証したわけだ。ケネス・グランジとオーラデザインの凄さが伝わる逸話である。



←3人いる人物写真の中央が、
オーラデザイン創業者の
マイケル・トゥ氏。

MONO

©オーラデザインジャパン
TEL:03-5743-6250
http://www.auradesign.co.jp/



Common Range

Aura Designに息吹を与えた
元ペンタグラム主宰
ケネス・グランジのサイン。

Aura note 5th Anniversary レコメンド・スピーカー モニター・キャンペーン

オーラデザインジャパンでは、いま同社製品購入者にベストマッチなスピーカーをモニター・プレゼントするキャンペーンを行っている。オーラデザインのコンポーネントの良さは、とにかくスピーカーさえ接続すれば音楽がすぐに楽しめるという点。難しいコンポ同士の配線に気を遣うことなく、すぐに音楽を聴く環境が整うのである。まず「**イメージング・モニター・プラン**」は「neo」と「groove」をペアでお買い上げの先着100名にELAC/Aura BS243LTD highgloss blackをモニター・プレゼント。ELAC社はドイツのブランド。その歴史は大戦前から、Uボートのソナー開発からスタートして、80年代より優秀な高級スピーカーを次々と発表している。以前からAuraとの相性の良さを推す声が多く、モニター・プレゼントされる同モデルは、2008年の発売開始から2ヶ月で完売した人気モデルである。次に「**スマイル・モニター・プラン**」では「note premier」をお買い上げの先着100名にAura poloがモニター・プレゼントされる。このスピーカーはカスタムメイドのドライバーユニットと、ドイツMundorf社の高品位ネットワークを採用したオーラデザインのオリジナル・スピーカー。*予約は2011年3月21日より全国のAura製品取り扱い代理店で。対象製品は2011年4月1日以降に出荷される商品に限る。予約数に達し次第終了。詳しくはWEBで。



↑オーラデザインのCDプレーヤー「neo」
／価格21万円と
インテグレートッド・
アンプ「groove」
／価格21万円。
↓オーラデザインの「note premier」
／価格29万4000円と
スピーカーシステム
「Aura polo」
／価格8万9250円(ペア)

